

平成29年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標		2 本年度の重点目標		達成度			
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 (学校経営ビジョン) 「ものづくりによる人づくり」部活動による人づくりを柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり		① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実 ③ 部活動の参加率・定着率の向上と活動の活性化 ④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着 ⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実 ⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上 ⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦 ⑧ ICT活用教育の推進		達成度 A:ほぼ達成できた B:概ね達成できた C:やや不十分である D:不十分である			
3 目標・計画							
③いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する いじめ問題が発生しないための環境づくりと啓発	いじめアンケートを2ヶ月に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 いじめ問題が発生しないよう、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。	B	アンケートによって発見したトラブルが2件あり、早期解決につながった。 校内巡視は各学年で不定期に行っていたが、校内喫煙が数件起きたのは反省点であった。	次年度は特別指導0をめざし、学年間、各務分掌と連携し、改善策を考えたい。
②ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」をとおして地域に貢献する。	地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 地域から依頼された物を製作する。 地域のイベントでもものづくり体験教室を開きものづくりの楽しさをPRする。	A	建築科では、地域の各種施設や事業所へベンチの寄贈を行っている。鬼塚ふれあいまつり、北波ふれあいフェスタでは、全科とも製作体験教室を行った。このような取組は、地域に浸透し、今年度はあるボランティア団体からの依頼で4科共同でイルミネーション製作を行い工業高校の存在感を示している。	学校PRや生徒の意欲の醸成の面からも、今年度同様、ものづくりを活かした地域貢献活動には今後も積極的に取り組んでいきたい。 地域との連携・地域への貢献は、専門高校として、学校活性化の中心的な取組である。このような取組が地域や中学生の保護者に理解され、入学希望者の増加に繋がってほしい。
③部活動の参加率・定着率の向上と活動の活性化							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	入学式、各集會などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年生の参加率を向上させる。 とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力を味わわせ、充実した学校生活に役立たせる。 部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあるため、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。	B	部活動紹介、体験入部、部編成と入部に向けた4月の活動をスムーズに、かつ充実した内容で実施することができた。9月の入部状況調査では90%と高い参加率であった。しかし、2学期中頃から、数名退部者が出ており、部活動を継続させるような働きかけが、今後の課題である。	部活動継続率を向上させるために、入部状況調査を5月、9月に加え1月にも実施したい。調査後、担任にその調査結果を還元し、早期に退部者への指導、次の部活動への斡旋などがスムーズに行えるようにしたい。
④規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	心の教育	道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	1年13回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 学期に1回、テーマを生徒に設定させる。 予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等が検証し、しっかりと意見等については中央廊下や教室に掲示する。	B	本校独自の取組であるヒューマントレーニングは生徒に定着してきた。これまでは、ある現場を見ての感想などが中心であったが、SNSの利用に関するものやオリピックに関する話題など昨今の社会的な背景を踏まえ、マナーやルールについて考えさせるような質問になってきている。また、代表的な意見はHRなどを通して紹介され、他者の意見に触れることも良い刺激となっている。三者面談等を通して保護者等への紹介もできた。次年度は学校中に掲載するなどの多くの人の目に触れるような取り組みを行いたい。	生徒の規範意識や道徳的意識は少しずつ向上しているように思える。また、生徒の懐かしい気持ちが大々的になっているようである。来年度も今年度と同様に「ヒューマントレーニング」を年12回程度計画していく。さらに生徒へのフィードバックを検討し、日頃の授業やHR、部活動など色々な場面で生かせるような取り組みを行う。合わせて学校中への掲載を行う。
教育活動	ボランティア活動への積極的参加	ボランティア活動への積極的参加	「地域の美化に貢献する学校」を目指す。各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。	生徒による学校周辺の放課後清掃活動を実施する。 唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。 ボランティア参加実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあるため、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。	B	今年度、部活動未入部生による放課後の清掃ボランティアを実施した。ゴミも今年度当初に比べると激減し、地域の方から、高評価のご意見をいただくこともあったが、まだまだ駅周辺でのマナー、立ち振る舞い等について改善すべき点があることがわかった。 唐津特別支援学校依頼のボランティアについては、例年以上に積極的に参加することができたが、その他のボランティア活動については、目標達成には及ばなかった。	未入部生による清掃ボランティアは、来年度も状況を見つつ、実施していきたい。地域の美化に貢献し、地域に愛される学校づくりを目指したい。 ボランティアの案内に関して、今年度以上にPRできるように心がけたい。
教育活動	学力向上	授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真摯な態度で受けるよう指導する。	各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその態度、改善を促していく。 学習指導において、授業態度を大幅に重視(35%)することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。	B	「学習状況記入簿」の活用は、学年により使用にばらつきがあったが、昨年度に比べ、生徒の学習態度がよい方向へと変わってきたためか入力が全体的に少なくなっていた。良好な生徒ばかりではないが、学習指導で授業態度を重視することが生徒たちに浸透し、生徒自身が自覚学習に取り組んでいるようである。	ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるが、来年度も「学習状況記入簿」を活用し、生徒指導や保護者面談等の資料として活用できるように取り組んでいきたい。授業態度については、良好な生徒が多くなってきている。これまで数年、授業態度を大幅に重視してきたが見直しを図り、生徒の学力向上に力を入れていきたい。
教育活動	生徒指導	頭髪・服装指導の改善	登下校はもとより、普段の身だしなみに対する意識を向上させ、さらに頭髪・服装検査合格者を前年度より増加させる。	3人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。 頭髪・服装検査の強化及び再発指導を実施する。 普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。	B	服装については生徒指導は全職員で行う形を一つの方策として各科・各学年を中心に行ってもらうようにしている。そのメリットとして先生方が自分の担当のところで責任を持ってみるという意識は向上したように思える。	今後は各科・各学年の連携をとりながら全体としてどのように行っていくのかという視点で取り組む必要がある。
⑤全生徒の進路実現のための進路指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	進路指導	進路の実現	基礎学力・コミュニケーション能力を向上させ、進路実現100%を達成する。また、適切な進路情報を提供し、生徒が主体的に進路を選択できるようにする。	授業を大切にし、家庭学習の習慣をつけさせる。生徒の就職・進学への希望の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 必要な情報を適切に提供し、適切な進路相談を通して、生徒の主体的な進路決定の手助けを行う。 会社訪問を行い、求人会社の情報を生徒に提供する。 進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高揚に努め、個別指導を行う。 教科・学年・部活動顧問との連携を密にした進路指導を行う。 面接指導・作文指導を計画し全職員と協力して行う。 進路指導資料を精選し、活用の充実をはかる。	A	目標である進路決定率100%は本年度もほぼ達成できた。1回目の就職試験での内定率は98.7%と昨年より4.3ポイント上昇した。 進学については大学に10名、専門学校に8名と受験者全員合格を果たした。このことは、早い段階からの進路意識の啓発が功を奏したと思われる。また、例年、生徒・保護者に情報提供を心がけ、効果的に伝達できた判断である。 残念ながら一方で、コミュニケーション不足または学力不足のために1回目の試験で内定できない生徒もいた。今後も、1年時から進路意識の高揚に努めるとともに、コミュニケーション不足の解消、学力の向上に取り組んでいく。 会社訪問については、精力的に行うことができた。	職業意識の育成を主眼に置き各務分掌との連携を強化する。 社会人外部講師、インターンシップ、工場見学、応募前職場見学、長期・短期インターンシップ、県内企業紹介会等を各務分掌と協力して実施し、各学年における進路によるLHRを充実させる。 外部就職ガイダンス等に2・3年生をそれぞれ参加させ、進路指導の徹底を図る。 進路希望調査を1年生にも実施し、2年生・3年生については複数回実施する。夏季休業中の補習についてはSPIを中心に、作文指導についても指導する。
教育活動	学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。	「数学会」は、今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日2名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 進路指導部とも連携し、特3年生については昨年度の指導形を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。	B	基礎学力の向上の為に「数学会」は、今年度も期間中休む生徒もほとんど無く、達成感も得られ成果が出たように思う。該当生徒のその後の数学の成績は、向上しており効果が現れている。また、例年少しづつではあるが指導対象となる新入生が減っていることを考えると、生徒の意識も変わってきているように感じる。	今後も達成感を得られ、数学の力がついたことが実感できるように問題作成を考えていきたい。また、生徒がその他の教科にも興味関心を持って学習に取り組むことや学習の習慣をつけることも重要である。現在一部の生徒に対して「数学会」を行っているが、1年生の全生徒に放課後、学習者用PCを使い数学以外の教科も含め、短時間で継続的に進めるような取り組みを検討したい。
⑥清掃活動の充実と校内美化の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるよう回収。ゴミの減量化と資源物(紙類)の回収を実施する。	清掃の時間は全生徒・全職員とも掃除に取り組む。生活環境の美化につとめ、進んで専任活動に取り組む意識を持つ。 ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 環境問題についてHR活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。	B	担任および掃除区域担当職員の指導により、各掃除区域の状態は向上し、校内の環境改善に役立った。以前に比べてゴミの量も減少した。	職員・生徒の掃除への取り組みは毎年向上している。今後も継続できるよう、職員・生徒の意識向上の啓蒙をはかる。
教育活動	安全教育	施設的安全点検と実習等の安全作業	安全点検を実施し、必要な対策を行う。実習の整理・整頓と安全な実習運営	毎月、各点検所の責任者が安全点検を実施し、報告する。 実習や課題研究では安全作業と適切な環境での作業を徹底する。	B	安全点検を毎月実施し、事務部の協力により、随時必要な対策を行うことができた。実習を伴う授業においては、授業者が必要な安全対策をとった。	校内の施設面では、安全点検だけに限らず、不具合が発生したときに迅速に対応していくことが重要である。そのために、情報の吸い上げが早くできるよう職員への協力を仰いでいきたい。
⑦資格取得やコンテストへの積極的な挑戦							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	資格取得	資格取得の推進と各種コンテストへの参加の推奨	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。 ジュニアマイスター関連のコンテストへの参加を勧める。	「資格取得ハンドブック」を有効に活用し、学年で最低2つ以上の資格を取得させる。 資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。 各科を通して、生徒にコンテストの紹介をする。	B	「資格取得ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源になっている。そのため、受験者は例年同様が多かった。一部の資格試験では、合格者数の低減もあるが、新たにコンテストに参加し、建築科では、「建築甲子園」に参加し奨励賞を受賞した。ジュニアマイスター認定総数は昨年より増加した。	資格取得に対して意識の高揚させることは進路指導の面からも重要である。合格率を上げるためには生徒の学習方法の改善指導が重要な課題である。奨励する資格の変更、指導方法の工夫など、指導体制の見直しも含め、検討したい。
⑧ICT活用教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	タブレット・電子黒板を利用した授業の推進	生徒が、わかりやすいと思う授業を目指す。 電子黒板・学習用PCを適宜使用して授業内容を工夫する。	SKYMENUの使用方法・SEI-Netのアンケート機能についての研修を行う。 ICT活用授業の実践例の紹介の研修を行う。 教員に対して、タブレット・電子黒板・基本ソフトの基本的な操作方法の研修とアドバイスを行う。 不具合等の対策を可能な限り素早く行い、円滑な授業運営を支える。	B	7月に教員向けの研修会を実施(SEI-Netのアンケート機能、SKYMENUの自習アプリの紹介をした)。また、他校のタブレットを使った授業のデータをサーバに格納しいつでも参照できるようにしている。電子黒板については、十分な利活用ができていないと感じている。来年度は情報セキュリティと質によるタブレットの取り扱いが課題であると考えている。	情報セキュリティについては、インターネットの使用や個人情報の取り扱いに關して十分注意しICT機器を活用していきたい。来年度から変更される電子データの管理や運用について、迅速な対応、すばい連絡をしていきたい。また、来年度からの新入生はタブレットが貸与することになるため、タブレットの丁寧な取り扱いについて指導していきたい。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	健康・体づくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	A	一学期の健康診断の結果を受け、保護者面談を通して、生徒の自己管理の意識を向上させた。インフルエンザの流行が始まる前から担任または生徒保健委員と協力し、生徒の健康状態の把握に努めた。	健康診断後の受診率の向上について引き続き継続して指導していく。
本年度の重点目標に含まれない評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を80%以上に上げる。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよ努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上に上げる。	保護者に対しては、PTA総会、唐工ニュースで周知を図る。 重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つの取り組みを徹底する。	B	学校方針や重点目標については、PTA役員会や総会等で周知を図っている。また学校ホームページにも学校評価計画を掲載し、周知の徹底に努めた。しかし保護者アンケートの結果では60.8%周知度であった。保護者により関心度合いに差があることが原因と考えられる。	PTA総会や文化祭等、保護者が学校行事にかかわる機会をとらえ、校内掲示や保護者向け関係文書に記載する等の取組により保護者の目にふれる回数を増やすことで周知度の向上が望まれるものと思われる。
学校運営	地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上(一般入試で定員の1.2倍以上を確保)	唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。 体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を、生徒に分かりやすい説明を行う。	B	学校内での行事や生徒の活動状況についての発信は、速やかな学校ホームページの更新や唐工ニュースの毎月の発行配布を行い保護者や地域より高い評価をいただいている。また、体験入学も2回実施で機会を増やしているがアピール不足からか昨年より参加者が若干減少した。	学校ホームページの更新、唐工ニュースの発行は、これまで同様のペースを維持できる体制を確保する。さらに志願者率の向上を図るためには、日頃の中学校への訪問を増やしより具体的な状況説明や質問に応えられるような体制を実現させたい。